

○副議長（横山人美君）

保坂議員。

○5番（保坂 悟君）

以上で、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○副議長（横山人美君）

以上で、保坂議員の質問が終わりました。

ここで、議長交代のため、暫時休憩といたします。

〈午後1時06分 休憩〉

〈午後1時08分 開議〉

○議長（保坂 悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、伊藤 麗議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。〔4番 伊藤 麗君登壇〕

○4番（伊藤 麗君）

糸魚川の未来を魅せる会、伊藤 麗です。

事前に提出いたしました通告書にのっとりまして、1回目の質問をさせていただきます。

1、地域医療について。

糸魚川総合病院とその後協議は行われたか、存続のために検討されている支援策はあるか伺います。

2、誰でもいきいき働く環境の整備の必要性について。

さきの衆議院選挙で「手取りを増やす」のキャッチフレーズで国民民主党が議席を伸ばし、年収の壁の引上げについて議論が行われています。働くシニアの年金減額の緩和を盛り込んだ改革案も厚生労働省より示されており、当市においても、人口減少による働き手の確保は大きな課題であります。よって、働く意欲のある人が働き、一人一人が活躍のできる環境整備が必要であることから、以下伺います。

(1) 若者や女性の働きやすい職場について、市としての認識を伺います。

(2) 障害をお持ちの方の働く環境について、現状の認識と課題を伺います。

(3) シニアが働き続けるために市として行っている支援はあるか伺います。

3、子育て支援について。

令和6年4月に児童福祉法等の一部を改正する法律の施行に伴い、子育て支援や自立支援、障害児支援が強化されました。

児童福祉法の改正ポイントにのっとり、糸魚川市の子育て支援の現状とこれからについて伺います。

- (1) こども家庭センターの包括的な支援体制の強化・拡充について、現状の取組を伺います。
- (2) 自立支援の強化について、現状の取組を伺います。
- (3) 里親支援センターの設置について、考えがあるか伺います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

伊藤議員のご質問にお答えいたします。

1 番目につきましては、当市に必要な医療体制等について協議を行う中で、県による支援と調整を図りながら、具体的な支援策を検討してまいります。

2 番目の1 点目につきましては、それぞれの事情に応じた多様な働き方を選択できる社会であると認識いたしております。

2 点目につきましては、現状では、法定雇用率は国・県の平均を上回る高い水準で推移いたしております。

一般就労では、小規模企業におけるサポート人材の不足や通勤手段の確保、福祉的就労では、本人のやりがいと生活全般の意欲向上が課題と捉えております。

3 点目につきましては、シルバー人材センターや高等職業訓練校に対して支援を行っております。

3 番目の1 点目につきましては、国に先駆けて、こども課内にこども支援室を設置し、全ての妊産婦と子ども・子育て世帯に対して、一体的に相談支援を行う体制を整えております。現在、子育て世帯ヘルパー派遣事業や産後ケア事業などの支援メニューを充実させ、支援体制の強化・拡充に努めております。

2 点目につきましては、里親委託や児童養護施設等への入所児童の自立支援に向けて、児童養護施設の運営主体や児童相談所が支援しているところであり、市も連携して対応しております。

3 点目につきましては、里親制度の窓口は、上越児童相談所が担っていることから、当市で設置する考えはございません。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。

○4 番（伊藤 麗君）

それでは、質問番号1 から再質問を行います。

9 月議会に引き続き、質問してまいります。

県内11 病院を運営するJA、県厚生連病院は、25 年度にも運転資金が枯渇する危機的な状況にあり、県では12 月議会に2,000 万円を県厚生連の経営改善計画の策定のためという補正予算案を示していると思っておりますけれども、来年度の存続が危ぶまれている糸魚川総合病院では、経営改善計画が、県の委託した事業による経営改善計画が示されるのを待っている場合とは思えません。

糸魚川総合病院のここまでの経営状態は、どのようになっているのでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

糸魚川総合病院につきましては、この春、それまでの261床から199床にダウンサイジングをしております。そんなことで、今年度については、特殊要因によって、年度末、黒字決算を迎える見込みとなっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。

○4番（伊藤 麗君）

黒字決済になりそうということで、そうなんです。今、病床のお話があったので、ちょっと伺いたいですけれども、手元にちょっと資料があって、入院の需要推計というのが、本県では、どんどんと減ってきているというデータがあるんですけれども、この先、糸魚川総合病院では、さらなる病床数の縮小も検討されているのか、今のところの進捗、ちょっとお聞かせいただきたいです。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

今後は、糸魚川総合病院の病床数については、地域医療構想と密接に関わってくると思います。それで、糸魚川総合病院の山岸病院長のご意見を伺う中では、今後、もう少し病床を減らすことが病院経営の改善につながっていくのではないかとこのふうにお聞きしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。

○4番（伊藤 麗君）

経営のためにダウンサイジングが必要だというのは、とても理解できるんですけれども、一度病床数を減らしてしまうと復活もできないというふうに聞いているので、その部分の見極めというのは、やはり慎重に行う必要があると思うんですけれども、その部分については、院長先生なりと意見交換というのはされてるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

先ほど申し上げました地域医療構想の上越医療圏の調整会議の中では、圏域全体の今後の人口減

少の推移を予測する中で、圏域全体で必要な病床数というものを割り出して考えています。それを8月30日の調整会議で議論しておりまして、そこでは、今後、必要な各病院の病床数は、それぞれみんな減らしていくことが適正なのではないかという議論になっておりました。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。

○4番（伊藤 麗君）

流れというか方向性というのは、確認しました。

それでは、やはり今、働いていらっしゃる皆さんのリアクションだったりだとかというところが気になっています。糸魚川総合病院のこのような報道があったということを受けて、実際、働いている皆さんが、離職されてるだとか、そういう事実というのはあるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

病院のほうにお尋ねしたところだと、これまで年末期、例えば年度末期というようなタイミングですとか、賞与の支給月の後に、決まって退職者が少し出るというのは通例だそうです。今回、厚生連のいろいろな所要削減とかそういった措置によって、特別に退職者が出ている状況ではないというふうにお伺いしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。

○4番（伊藤 麗君）

人材確保対策として、今、市として考えている支援策はございますか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

今回、私どももいろいろなことを考えさせていただきました。まずは、今お勤めをされている皆さんからお残りいただくこと、これが一番だというふうに捉えております。それで、これまで私たちは医療人材の確保ということで、修学資金でございまして、いろいろな仕組みをつくって支援をしてまいりました。これも継続しながら、今お務めいただいている方、糸魚川総合病院にいらっしゃる方というのは、全て市民の皆様ではなくて、ほかの地域からもおいでいただいて、糸魚川の医療を支えていただいておりますので、そういった方から転勤だとか、退職の意向が出ないように支援をしっかりとしてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。

○4番（伊藤 麗君）

今、課長に全て答えていただいたと思っています。私も、市外から来てる人たちの今後というのをすごく心配していて、その部分への支援というのは、当然必要だと考えています。

ただ、例えばそういう部分に支援をしたときに、市内の同じような医療従事者の皆さんから、自分たちにもそういう支援が欲しいというような声が上がってくるかもしれないんですけども、そういう部分で、ましてやこの糸魚川総合病院は、公的な病院であるというところでしっかりと説明をしていただければいいかなというふうに思っています。私もその部分の支援は必要だと思っています。

そして、引き続き質問に続けさせていただくんですけども、令和7年度新年度予算に、恐らく具体的な支援策が盛りられるというふうに私は見ているんですけども、県や国からの支援は、受けることができそうかどうか、今のところの感触をお聞かせいただけますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

先ほど市長の答弁の中で、田原議員のときの答弁の中で、国・県への要望のお話をさせていただいております。そんな中で、国のほうは、総務省のほうで、市が地元にある病院に支援した場合の財源措置をお考えいただいておりますし、これまでの特別交付税の拡充についてもご検討いただいているところでございます。県につきましては、6市の協議会で、米田会長以下、皆さん、市長さんが、皆さんが、かなり県に厳しく詰め寄っていただいたおかげで、今県のほうから財政支援をしていただけるということが知事の口から出ておりますし、その内容については、今、大詰めの段階というふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。

○4番（伊藤 麗君）

先ほどの田原議員の質問も、ごもっともだなというふうに考えながら聞かせていただいていたました。

一方で、市長の県や国とある程度歩調を合わせて、そして厚生連病院のご意向もありますし、糸魚川市だけがこういう支援をするんだって勝手に決めたような形になってしまって、例えば県とか、じゃあ糸魚川総合病院は、糸魚川市さんだけで何とかできそうですねというの、考えようによってはあると思うんですよ。そういう部分での大切な問題だからこそ、慎重に歩調を合わせて議論を進めていくという市長の政治的な姿勢に関しては賛同する立場なんですけれども、とはいえ、やっぱり新年度以降どうなるのかというところが心配されている中で、先ほどね、大詰めのところまで来ているというようなご答弁あったんですけども、何月何日に、例えばどのようなメンバー

でそういう話し合いをする会が予定されているとか、もしお聞かせいただけるのであれば、聞かせていただきたいです。お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり今この6市の中で、厚生連病院を中核の公的病院で担ってるやってる厚生連の病院で、今非常に厳しい状況の中で対応してるわけでありまして。と言いながらも、各市、実情が全然違ってあります。そういう中で途切れのない支援策として今個々にやってる部分があります。合同で対応していく部分も今大事なところに来てるんですが、今言ったように、個々で対応してる部分については個々で、要するに医療人材を確保していくことが真っ先の今、急務な対応だろうという形で、個々の自治体の中で対応させていただきたいということ。そして、これからの中においては、6市全体であったり、残りの5市の皆様方におかれましても、やはり中核でないにしても、その地域の都市の大事な地域医療を担っていただいている厚生連病院だということの中においては、同調歩調をしていただきたいという形で、それにもお願いに上がってる次第でございまして、でありますから、今本当にそういったところまで、一体となって動いてくる大詰めに来ておる状況でございまして、そういったところはもう少しお待ちいただきたいと思いますが、そういったスケジュールについては、また、担当課長のほうから答弁させていただきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。

○4番（伊藤 麗君）

というふうに市長おっしゃっておりますので、課長、お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

今、県と協議をずっと重ねてきております。そんな中で、私たち市の、6市のスタンスというのは、まず、県の支援をいただくことがまず第一、その支援を見させていただいて、私たち6市の支援があるという中で、私ども糸魚川市の予算編成作業も今大詰めの時期を迎えておりまして、財政課長にも大変迷惑をかけてるんですけども、そんな中で、今月、年内がその期限になってくるのではないかなというふうに思っております、県ともその情報交換を密にいたしまして、当市の予算編成にも間に合わせていきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。

○4番（伊藤 麗君）

その様子というか協議の結果については、どのような場面での報告をお考えでいらっしゃいますか。プレスリリースという形になるのか、委員会への報告になるのか、もしお考えがあれば、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

まず、県の予算については、県の予算発表の中で示されるものと思っておりますし、それに合わせて私ども糸魚川市も、同様に令和7年度当初予算の予算編成の中でご説明をしていくものというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。

○4番（伊藤 麗君）

これだけ市民の皆さんが心配しておられる案件なだけに、当初予算案の説明の前に何か報告というか進捗の、何ていうんでしょうね、進捗を知れたらいいなと個人的には思っています。それだけお伝えさせていただきます。

引き続き質問するんですけども、前回の令和5年度決算審査の中で、私、地域医療に関わる基金の創設について考えがないか、提言させていただいたんですが、こちらに関しては検討状況などいかがでしょうか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

猪又財政課長。〔財政課長 猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

お答えいたします。

議会の中でご提案をいただいた内容につきましては、その設置の目的であったり、時期、また規模感というところも含めて、検討してまいりました。

その中で、現在ご質問いただいております厚生連、また、糸魚川総合病院への対応というところが喫緊の課題としてあります。そちらのほうに、今後、国・県の動向、市長答弁等はございましたけれども、そういったところで動きに合わせて、また遅れないように、必要に応じては市の対応というところも含めまして、しっかりと対応したいということから、限られた財源でもございますので、今後の状況を見ながら、そちらのほうを継続して検討していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。

○4番（伊藤 麗君）

厚生連の支援に限らず、介護・福祉によるケア等を含めて、私、地域医療だと思ってるんですが、地域医療確保対策基金は、今後ますます必要になってくると思います。確かに、今、課長ご答弁いただきましたように、厚生連の支援は、毎年50万円積み立てたからってどうにかなるような額では、どうやらなさそうだと私も思っているのですが、そちらに関しては、国や県からの支援をぜひいただきながら進めていただくのと並行して、今、糸魚川市の基金っていろんな項目があると思うんですけども、全部合わせると、多分80億ぐらいあったと思うんですね。その中で、名目もいろいろあると思うんですけども、例えばもうそろそろ使われていない名目のものを統合していただくとか、この地域医療に関わる基金の創設というのは、また並行してお願いしたいところでありませう。何かお考えあったらお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

猪又財政課長。〔財政課長 猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

新たな基金の創設につきましては、今ほどお答えしましたとおり、しっかりと継続して、検討していかなければいけないということでございます。その他の整理・統合というところにつきましては、目的があって設置している基金でございますので、そちらのほうも、今後の行財政運営の中でしっかりと活用状況等を考え、慎重に検討・判断してまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。

○4番（伊藤 麗君）

さきの議会でも公設民営化で維持していくという考え方についても、議論の俎上にのせられていたと認識しているんですけども、私は、糸魚川市の公設民営は、とても厳しいと考えています。県の管理下による公設民営の可能性を模索する必要があると思うんですけども、既にお考えや動きがあれば、お伺いしたいです。お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

まずは、厚生連による運営が続けられることが、まず第一だというふうに思っています。そこへの支援を続けてまいりたい。けれどもそれが叶わなくなったような場合には、公設民営の検討が必要だということはお伝えしておりますし、その公設民営の考え方の中で、直ちに市立病院にすることではなくて、まずは県立病院にさせていただく。そこを俎上に上げた中で、市立病院も含めた公設民営化の検討をしてまいりたいということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。

○4番（伊藤 麗君）

まだまだ動きとしては、時間の経過とともに状況が変わっていくところだと思いますので、経過を注視させていただきたいと思います。

それでは、2番の質問に移らせていただきます。

年収の壁が178万円に引き上げられた場合についてお伺いしたいんですけども、糸魚川市の税収にどのような影響が見込まれているのでしょうか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

川合市民課長。〔市民課長 川合三喜八君登壇〕

○市民課長（川合三喜八君）

当市への影響でございますが、個人市民税で約6億4,000万円減収になる見込みでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。

○4番（伊藤 麗君）

大きいですね。こういう声が地方の首長たちからも上がっているところだと思います。心配の声が上がっているのも事実だと思います。

しかし、今回の衆院選では、私の身の回りにも130万円の壁を意識して、扶養内のパートで働いている身だから、この壁を引き上げるという政党に引かれたというようなことをおっしゃるような方もいました。大学生だったりアルバイト学生においても、やっぱりこの収入の壁というのは、皆さんの働くことへの障壁になっているのかと思います。これまで自民党は賃上げをして、手取りも税収もどちらも増やすということを目指してきたのだと理解しているんですけども、世論の高まりによって、今回は年収の壁が引き上げられる可能性が高いのではないかなというふうに私は見えています。

総合計画策定時に取られたアンケートによりますと、58%の企業が人材確保について、「かなり不足している」、もしくは、「やや不足している」というふうに答えています。年収の壁がどうなるかについては、引き続き動向を注視することになりそうではありますが、働きたい人が働ける環境整備をすることに対しては、私は賛成の立場であります。

それでは、（1）から再質問をさせていただきます。

ここでいう若者というのを、いわゆるZ世代と定義してお話を進めさせていただきたいと思うんですけども、現状、糸魚川市においては、若者も女性も、一度勉強しに出て行ってしまったまま、そもそも帰ってきていないので、企業さんがどういうふうに獲得するかというのは帰ってきてからの話になるのかなというふうに理解はしているんですけども、このZ世代と呼ばれる世代は、デジタルネイティブという呼ばれている世代でして、この考え方が、職場環境や働き方にも大きな影響を与えているとのことなんです。

日本では、少子化によって若者の人数は少ないんですけども、世界的に見れば、消費者のボリュームゾーンでもあるということで、世界を股にかけて事業をしているような企業にとっては、この世代の動向というか、考え方、ライフスタイルが、新たな戦略、商戦、ビジネスの戦略にとって、やはりとても重視している視点だとのことです。

Z世代は、どういうふうに言われているかと申しますと、私よりちょっと下の世代です。多様性とお互いを許容しながら共存することと、あと労働に関しては優柔、フレキシブルで、仕事と生活の調和を重視する傾向があるとのことです。

厚生労働省が2019年に、働き方改革に関する法案を発表したことで、ワーク・ライフ・インテグレーションという言葉ができたりだとか、あと人生の中に仕事があるという考え方のワーク・イン・ライフという考え方に注目が今集まっています。これに女性の働きやすさを加えるとすれば、産休・育休が安心して取れる、生理休暇などホルモンバランスによる体調不良に対する理解の促進、企業内に託児所、きれいなオフィス環境などが上げられるのではないのでしょうか。わがままだなんて思った人もいるかもしれないんですけども、ただ、これが実情、こういう働き方を求めて、もしかしたら糸魚川市の若者ないしは女性が、県外に流出しているかもしれないということをちょっと伝えさせていただきたいと思います。

続けて、総合計画策定時に中高生向けに取られたアンケート結果によると、全体の2割が高卒の時点で市内の企業とマッチングできる。ですけど、残りの1割は市外に就職をする。で、残りの7割が進学や就職で市外へ出てしまうというのがデータとして出ています。この部分で、今年度実施された各種取組の成果を伺いたいと思います。人口減対策プロジェクトに示されてたと思うんですが、その取組の成果を教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

人口減少、少子化対策のプロジェクトということでお答えをさせていただきたいと思います。

先般6月に総務文教常任委員会で報告させていただいた資料の中で、今ほどのお話ですと地元就職促進に向けた支援策といったところかと思いますが、その中で、例えば調査研究・検討事項といった形で高校との連携拡充ですとか、就業支援メニューの拡充、地元定着支援メニューの検討、外国人就労者の支援拡充検討といったところを庁内で検討してきたといったところでございます。これまでの中で、また先進事例なんかも見させていただきながら、お聞きしながら庁内で検討してきて実施計画、この後、予算といった形で示されていくものというふうに思っております。現在、令和6年度で取り組んでいるものについては、その評価をもって次年度をどう取り組んでいくかといったところになるかというふうに思っております。現在のところは、成果と言えるかどうかはあれですけども、現状としてはそんなような状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。

○4番（伊藤 麗君）

令和6年度の具体的な取組ってどういうことが行われたかって、お聞かせいただくことができますか。いいですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えさせていただきます。

少子化のプロジェクトの中に、何点か施策のほうを記載させていただいております。その中では、令和6年度、新たに事業を行ったものにつきましてお答えさせていただきますが、まず、外国人材雇用支援事業、こちらのほうは、食を通じた交流イベントを今年度、開催させていただいております。

また、外国人生活支援ポータルサイトを新たに構築のほうもさせていただきました。またその中で、PR動画も作成しております。

地元就職促進事業といたしましては、出身者と、地元企業の交流イベントでありますチル・ナイトのほうを、今年は初めて新潟市で開催させていただいております。

また、インターンシップ促進事業につきましては、インターンから、就職につながったマッチング補助金が2人、また、企業がインターンシップの参加者の経費を負担する促進補助金が、3社、8人ございました。

また、今年から新たにつくった事業でございます、糸魚川人材ゲット&ステップアップ促進事業ですか、こちらのほうは、高校卒業後、すぐに地元就職した方へお祝い金という形で、運転免許証取得費の支援といたしまして、1人一律5万円を助成しております。今現在は、53名の方がご利用いただいております。

すぐに成果とか結果は出にくいなと思いますが、おおむねこれらの事業は順調に行っているというふうに感じております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。

○4番（伊藤 麗君）

今ほど課長おっしゃられましたように、突然100人帰ってきたとか、そういうのは難しいとは思っておりますので、本当に一歩一歩かと思えますけれども、引き続き支援の充実を図っていただければと思います。

女性の就業率についてお伺いしたいんですけれども、以前、一般質問の中で、当時の国勢調査の結果で、市内20市中、糸魚川市は女性の就業率が最下位だったというところで質問をさせていただいたんですけれども、変動はあったか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

非常に今、糸魚川においても、働き方改革によって、企業の皆様方はいろいろ努力をいただいております。そういう中であっても、やはり厳しい環境は変わらないなと思っておるのが実情でございます。私も首都圏のほうに出向いて、首都圏の企業の皆様方と懇談するとか、また企業の会社の中を見させていただいたりもしていると、やはりコロナ前とコロナ禍以降では、全然もう働く環境が大きく変わっておるような気がいたします。それに対して糸魚川はどうかというと、なかなかそういうやはり速度につながってないところも感じる次第でございます。だからといって、大都会の企業と張り合っていけるかということ、私はできる状態ではないと思うので、糸魚川として働く環境を、やはり糸魚川らしさのやつをしっかりと確立していくことが大事かなと思っておる次第でございますので、今、商工会議所、商工会の皆様方が、いろいろお考えいただいているやつに対して、我々も連携をしながら、今進めておる最中でございますので、担当課長からもまたご説明しますが、私といたしましては、今そういう状況でございますので、やはり女性の働く環境、また、ここで育って、そして都会で学んだり学習して、また帰ってこれる環境だとか、そして、働く皆様方の環境を、より糸魚川らしさの中で描いていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

以前、伊藤議員にお答えした数字につきましては、そのときは平成27年の国勢調査の結果しか出ておりませんでした。そのときは、やはり県内20市中、一応、最下位だということでした。今回、令和2年度国勢調査の数字のほうが発表されておまして、そちらも、県内順位でいいますと、残念ながら県内20市中は最下位でございます。

ただ、平成27年度国勢調査の数字は、まず45.2%、令和2年度国勢調査は47.1%でございます。ポイントは若干上昇はしておりますが、やはり最下位という順位が変わらないということになります。やはり当市の産業構造によるところも多いんじゃないかなというふうに分析しております。引き続き、働きたいと思うような、女性が働けるように、多様な働き方を推進させていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。

○4番（伊藤 麗君）

米田市長からお話あったように、大企業ね、都会の大企業と張り合って、同じような働き方の推進を進めていくのは難しいというのは私も本当に同じです。

ただ、逆に都会の大企業で働いている若者や女性が、糸魚川でもリモートワークしやすいだとか、帰ってきてリモートワークをするんだけど、地域活動に対して積極的に参加していただくだったりだとか、市民活動を起こしていただくだったりだとか、そういう部分への支援というのがいいんじゃないかなというふうに私個人では今思っているところです。

引き続き伺うんですけれども、今、課長から答弁があった、ポイント的にはちょっと上がったんだけれども、依然として市内20市中最下位の状態、産業構造によるものも大きいのではないかというお話だったんですけれども、市内企業の94%は、何かしらの女性を雇用するメリットを見いだしているにもかかわらず、全体の22%の企業が、女性雇用に今後も取り組む予定はないというふうに答えています。建設業でその回答が顕著なのは、何ていうんでしょう、理解できるところなんですけれども、卸売、サービス業でも業種数に対してのこの女性を雇用する予定はないというふうに回答された方の割合が高かったんですね。

女性雇用の課題という欄を見てみると、出産・育児等で仕事を辞めてしまうリスクが高い。育児等で時間の制約がある。子供の病気等で急に仕事を休むなど、稼働が読めないなど、子育てに関わる役割の多くを、やっぱり糸魚川市では女性が担っているイメージが根強いということが分かると思います。

市内では待機児童の問題がほとんどないことや病児保育やファミサポなど、核家族でも子育てしながら働くが、両立しやすくなってきていることや、ある程度子育て中の男女に対しての、急に休んでしまうだとか、そういう部分の理解を促進するような取組も必要だと思うんですけれども、この部分、何か取組が既におありか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

やはり今ほど言われましたように、やはり育児は女性が担うものという意識が、まだまだ根強いのかなというふうに思っております。この根強さが、やはり女性の就業率の低さにもつながる部分があるのではないかなと思っております。引き続き、やはり普及啓発等、社会全体の働き方として、多様な働き方を認めていくというものを伝えていかなければいけないと思っております。

また、企業の人材確保や定着に役立つ国の認定制度がございます。その中で、子育てサポート企業の制度としまして、「くるみん」というものがありますが、市内にも、認定を受けております企業もございますので、取組のほうを、横展開のほうをしていきたいなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。

○4番（伊藤 麗君）

市内の働いていない女性が、どのような理由で働いてないかというのを私はすごく知りたいんですよ。そこを調べるような調査というのは、現状、糸魚川市で行われてないということなんです。私は、そこを深掘りするべきだと思うんですが、市長お考えをお伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはりミスマッチ的に何かそういうのを感じる次第でございまして、やはり企業としては、今言ったような女性が働くにはちょっと不利ではないかなという捉え方をされてるんじゃないか。また、働く方々におかれては、あそこの会社はどうも女性に対しては厳しいんじゃないかというようなところで、お互いにやはり情報提供がされてない部分があるんじゃないかと思いますので、私としましては、そういうことのないように、今のこの新しい雇用の在り方について、やはりもうちょっと情報の連携をしっかりとしていくことが大切なのかなというのを感じておる次第であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。

○4番（伊藤 麗君）

市内の女性に何かしらのアンケートを取ってほしいというお願いを、以前から一般質問の中でもさせていただいておまして、今手元にキャリアステージいといがわさんのワーカーアンケート結果というのを持ってるんですけども、キャリアステージいといがわで働いてらっしゃる方にとったアンケートでは、ここで働いてる方の年代だったりとか、あと、今の職場での満足度だったり、今まで働かなかった理由というのが書かれているんですよ。これすごいいいと思うんです。これをキャリアステージいといがわ内にとどめるのではなくて、例えばこども課とかに協力を仰ぐのか、こども課とかにそういう、子育て世代の就労の状況を把握してたりしないんですかね。とにかく全庁的に連携しながら動向をしっかりと、何で働いていないのか、働きたくないのか、働きたいけど働けない何か理由があるのか、調べる必要というのがあると思うんですけど、何かこう、全庁的に協力してそういうことを行っていくとか、そういうことってお願いできませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

少子化対策プロジェクトの中にも、調査研究・検討事項ということで意識調査のほうは記載されております。やはり伊藤議員おっしゃるように、なかなか私も実態というのはつかみ切れておりませんので、これから、やはり新たな総合計画のほうも策定してまいりますので、その中で、市民アンケートというのを実施する予定になっております。项目的にどこまで入れるか分かりませんが、そういうような視点を持ちながら、作成のほうをしていきたいなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。

○4番（伊藤 麗君）

ちなみにキャリアステージいといがわで働いていらっしゃる皆さんは、すごい満足してそうだなというふうに見てとれました。今までは、こういう柔軟な働き方ができる場所がなかったのでうちにはいたという方も、割合的には多くいらっしゃいますし、じゃあ働いたお金を全部生活費に充て

てるかといったら、自分のお小遣いにしてるよなんて方もいらっしゃるので、本当であれば働く必要がなかったんだけど、この働く場所ができたから働き始めたって方がいるということだと思うんですね。キャリアステージいといがわがあって、DONUTS社の誘致がされて、さらにこういう働き方の層を集めていく、厚めにしていく必要があると思うんですが、その誘致の予定だったりだとか、取組というのは、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

やはり新たな企業誘致というのは、長い間培ってきました企業誘致の活動とともに、人と人とのつながりを活用しながら、交流のほうを生かしながら新たな企業を見つけていきたいというふうに考えております。そのような企業も、やはり市内にもぼつぽつと見受けられるようになりましたので、その輪を広げていければなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。

○4番（伊藤 麗君）

お願いします。

（2）に参ります。

障害をお持ちの方の働く環境についてですが、2024年に障害者雇用促進法が改正されました。これによって、令和6年度から変わったこと、大きくサービスが変わったことなどあれば、ポイントを絞って、分かりやすくご説明いただけますか。お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

山岸福祉事務所長。〔福祉事務所長 山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

お答えいたします。

就労に関わる部分というところでお伝えいたしますと、まずは、法定雇用率のところは2.3から2.5%に引き上げられたというところが1つ。そして、これは促進法なんですけれども、障害者の総合支援法のところでも申し上げますと、大きくは就労支援のメニューが1つ増えたというところがもう一つあります。そしてもう一つが、こちら、一般の就労している障害者の方が、一時的に例えば病気・疾患等で障害者手帳を持つような形になり、一時的に福祉就労を使用したいという場合には、福祉就労も併用して利用できるというところが大きな改正点となっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。

○4番（伊藤 麗君）

今ご説明いただいた後段のほうなんですけど、労働者の方が途中から手帳を取得した場合に、手続するのは企業側になると思うんですが、企業側への周知というのは、どのような形でされてるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

山岸福祉事務所長。〔福祉事務所長 山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

お答えいたします。

福祉サイドとしては、企業側にこのような制度が新しくなったということは、特別なアプローチはしてはおりませんが、ハローワークのほうでも障害雇用というところで取り組んでいただいている中で周知しているというふうに理解しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。

○4番（伊藤 麗君）

令和5年度の決算審査の際に、私、就労支援B型の工賃、他市と比較して、他市、上越市なんですけど約月2万円というところが、糸魚川市ではどうなのかというふうにお伺いしたところ、5,000円とか1万円とかというお話だったと思うんですが、これって、総合支援法の配分金のほうのお話だったということでもいいのか、糸魚川市の就労支援B型の平均の月額工賃、教えてくださいいただけますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

山岸福祉事務所長。〔福祉事務所長 山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

お答えいたします。

議員おっしゃいますとおり、5,000円から1万円というふうにお伝えしましたのは、地域活動支援センターという、就労ではない形なんですけれども工賃ということではなく配分金として配分されている金額が、おおむねそのような形になっておりまして、B型につきまして、そのときはちょっときちんとした数字を把握しておりませんでしたけど、今回お知らせしたいと思います。平均工賃につきましては、1万7,000円から2万円という形になっております。

なお、B型の事業所については、現在、市内では3か所となっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。

○4番（伊藤 麗君）

今回、質問させていただくに従って、障害者の就労支援の現状と課題を糸魚川市ささえあいプランを拝見させていただいたんですけれども、今、市内にある就労継続支援事業所というのは、A型は2社、B型が3社ということで、また、市外に働きに出ている方の人数等を確認させていただいたんですけれども、やっぱり就労支援B型の事業所を求めて市外に行かれてる方が多いようなんです。その部分での糸魚川市での今後の取組・課題、お聞かせいただけますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

山岸福祉事務所長。〔福祉事務所長 山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

お答えいたします。

おっしゃいますとおり、市外に出ておられる方が、B型では12人ほど、これは実績としては、この9月実績ということになります。それぐらいの人数の方が市外で就労されているという実態はございます。この背景といたしましては、もともと就労支援を行う事業所の近くのグループホームや宿泊型の自立支援訓練施設というような、宿泊型の施設が糸魚川にはないような施設も、市外にはあるということで、そちらのほうを求めて、その近くの就労を求めて、結果的には上越で就労という形になっている方々というふうに把握しております。

この課題を踏まえまして、やはり就労支援を、障害者の方の就労支援をしていくに当たりましては、そういう生活全体の支援というところが必要ですし、居住の確保というところも非常に重要になってくるというふうに考えております。ちょうどこの4月になりまして、もう一か所、市内でグループホームの建設が今進んでおりまして、開設も予定をされておりますので、そういった形での住宅の確保、そして生活全体の支援というところから、市内に障害者の方で就労を求める方が、市外に流出しないようにというところを心がけ、また、支援のほうを継続したいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。

○4番（伊藤 麗君）

就労支援A型で働いていらっしゃる皆さんは、就労支援ということなので、何ていうんでしょう、習得の内容だったり体調だったり、仕事と合うかどうかとかいろいろあるとは思いますが、うまくいけば一般就労につながっていくということで、市内に一般の企業に勤めていらっしゃる方もたくさんおられると思うんですね。やっぱり当市においては、この就労支援事業所のB型の部分のさらなる拡充と、あと今、所長にもおっしゃっていただきましたけれども、住む場所、住まいの支援というところもセットで必要になってくると思います。こちら一朝一夕とはいかないとは思いますが、企業への理解の促進も、併せて行っていただきたいと思いますが、企業と一緒にやっている何か取組はありますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

山岸福祉事務所長。〔福祉事務所長 山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

お答えいたします。

企業側へのアプローチということで、やはり先ほどの女性のところでも話題になりましたが、情報共有ということが非常に大事だと考えております。市内で自立支援協議会というものを実施しております。その協議会の中で、就労支援に特化して協議する場というものも設置しております。そちらの中で、委員の皆様は、ハローワークの方だったり就労支援の事業所だったりというところで、皆さん委員になっていただいて、実際どういうふうに企業と連携していくかというところを協議しておりますし、今年度につきましては、5月なんですけれども、糸魚川ライオンズクラブさんのほうとの情報共有の場ということで、勉強会も実施しております。その中では、企業の皆様方にも、特に法定雇用率の対象になっていない中小企業が非常に糸魚川市内多いということもありますので、特に中小企業の方々に就労支援というところに目を向けていただきたいという取組として実施した勉強会でございます。こちらのほうでは、実際、障害者就労を経験された中小企業の方に発表していただいたりというところで、イメージつきやすいような話題提供をして、勉強会をしております。ぜひこの取組を今後も継続というところで、協議会のほうでは、また今後、取組を検討しておるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。

○4番（伊藤 麗君）

障害を隠して就労したい人もいらっしゃるだとか、障害を持つ人に対する偏見が根底の問題にあたりすることもあると思いますので、その部分の周知・啓発も含めて、引き続き企業と連携して行っていただきたいと思います。

（3）についてです。高齢者雇用についてなんですけれども、高齢者雇用安定法で70歳までの就業機会の確保が、努力義務なんですけれども、企業に課されるほど健康寿命が上がって、元気に働ける高齢者が増えていると思います。企業側も、実は女性を雇用するよりも高齢者を雇用することに対する課題感のほうが少ないと捉えてる法人のほうが多いようでした。

ただ、どういうところが高齢者雇用の課題になるかということ、やっぱりけがをしてしまうというところだと思うんですね。この部分に対して、例えば法律への対応に加えてシニア人材が安全に働くための設備面の支援だったりだとか、そういうことを企業に対してするようなお考えはありませんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

今お問合せの件につきましては、国ではAGフレンドリーという取組がございます。ガイドライ

ンのほうも定められておりました、環境整備に対する補助金もございます。また、高齢者雇用安定助成金も活用できますので、内容につきましては、ハローワークなどにお問い合わせいただきたいなと思っております。

市といたしましても、そのような制度があることは、周知のほうに努めさせていただきますし、高齢者の働きやすい環境整備に努めてまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。

○4番（伊藤 麗君）

国の支援があるということで了解いたしました。ぜひ広く企業にも周知していただければと思います。意外と企業さんも、ハローワーク通せばいいということを知らなかったりする中小の方も多くいらっしゃるの、その部分の周知というのをぜひよろしく願いいたします。

それでは、最後の質問に参りたいと思います。

時間が迫ってまいりましたので、子育て支援に関しては、（1）のこども家庭センターについての質問にちょっと絞って質問をしていきたいと思っております。

今、糸魚川市において、こども家庭センター機能を担っているのは、市役所内にある、こども課の中のこども支援室だと思うんですけれども、市役所内に置いていることの有用性について教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

こども課に置いていることによりまして、まずはやっぱり一元的な窓口ということで、母子保健部門、また、あと児童福祉部門、そういったことを一体的に支援できるといったところ、まさにこれが、こども家庭センターの設置目的といったところに合致しているというふうになっていると思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。

○4番（伊藤 麗君）

こども家庭庁は、相談窓口の設置とその入り口を増やすことを自治体に指示していると思うんですけれども、困り感のある家庭の情報をキャッチして、相談につなげるという作業が一番大切だと私は理解しています。

近年、事件性のある案件が幸い市内では発生していないことから、適切に相談や支援に、基本的にはつなげられているものと思うんですけれども、こども支援室に寄せられている相談事の主立ったものは、何かお伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

こども課で受けております児童相談の内訳といたしましては、やはり養護相談という形での児童虐待に関する部分というのが多くございます。これは、こども課で受けている相談自体が、やはり通常、相談といいますと、ご本人さんが困ったという形で相談をされるというところかもしれないんですが、こども課に来る相談というのは、学校ですとか県、あとは、また警察とかほかの行政機関とかが、お子さん、親子の状況に気づいてご相談をいただくといったものも含まれておりますので、そういった中では、やっぱり虐待相談というのが多くなっているといった状況がございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。

○4番（伊藤 麗君）

糸魚川市では、医療費の無償化、病児保育、ファミサポ、放課後等デイサービスの拡充などと、どんどん子育て支援が充実してきていると思っています。

昨日の報道では、糸魚川市が、こどもまんなか応援サポーター宣言を行ったというふうになりました。産前・産後ケアにおいても、さらなる充実を期待しています。今週、その件で園田先生にばったり庁舎の中でお会いしたんですけれども、病児保育の予約システム「あずかるこちゃん」について、市民の方から喜びの声が届いたということで共有していただきましたが、民間の支援に感謝する一方で、行政に病児保育を利用したいって相談したら、育休中は利用不可なんですというふうにあしらわれたというような表現もその中にされていて、これってすごい残念だなんて思ったんですね。現状、どのような対応に今なっているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

基本的には、育休中というところでは、お子さんを見ていただくことができるということになっておりますので、そのような対応とならざるを得ない部分はございますが、個別にご相談いただければ、相談に乗って、いろいろな病児保育以外にもファミリーサポートセンターとか、ほかの対応というところも考えられますので、ご相談をいただければ対応してまいりたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。

○4番（伊藤 麗君）

この方、どういうふうにお問い合わせたか分からないんですけど、病児保育使いたいという言葉の裏に、例えば双子のケアがあるとか、双子プラス上のお兄ちゃんもいてとか、そういうのが隠されてたんじゃないかなって思うんですよね。そこの聞き取りをやるのが、この相談支援だと思うので、それについてどう思われますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

個別のケースの部分で、ちょっと正確にお答えできない部分もございますが、やはりしっかりと市民の方の身になって話を聞くというところが、まず第一だと思っておりますので、また当課の職員にも、そのような形で話をしていき、適切な受付対応になるよう努めていきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

伊藤議員。

○4番（伊藤 麗君）

こういうとき、一問一答じゃ駄目なんだと思います。どうされましたかとか、そういうお声がけを心がけていただきたいなと思います。せつかく、こどもまんなか応援サポーター宣言をしたので、ぜひよろしく願いいたします。

以上で、質問を終わります。

○議長（保坂 悟君）

以上で、伊藤議員の質問が終わりました。

25分まで暫時休憩いたします。

〈午後2時15分 休憩〉

〈午後2時25分 開議〉

○議長（保坂 悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、和泉克彦議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

和泉議員。〔10番 和泉克彦君登壇〕